

インド

健康な森、健康な人々、気候変動プロジェクト
西ガーツ北部の生物多様性保全と持続可能な生計支援
現地からのお便り

2019年8月
Applied Environmental Research Foundation (AERF)
コンサベーション・インターナショナル

* 本プロジェクトは、インドの地元 NGO である Applied Environmental Research Foundation (AERF) が実施します。

保全契約

Devade 村の Dhumakwadi 集落と Chinchwalkarwadi 集落と話し合い、286 エーカー(約 115 ヘクタール)と 61 エーカー(約 25 ヘクタール)のコミュニティ森林の保全契約を延長し、さらに 10 年間、これらの保全を継続するという合意を取り付けることができました。61 エーカーのコミュニティ森林については既に署名し、286 エーカーのコミュニティ森林については来期署名する予定です。



Devade 村での会合の様子

FAIRWILD 認証の審査、収穫と処理

Sangameshwar 地区の FAIRWILD 認証サイトからのビヒタキ採取量が過去最大を記録しました。今年、地元採取人たちは、村人の協力も得て、12,800 kg のビヒタキの実を集めました。そのうちの 2 トンの殻が地元企業の Phalada、トリファラというアーユルベータのブレンドの 1200kg とビヒタキの殻 150kg が Pukka に出荷されました。残りはイギリスの Pukka 社に今後 6 ヶ月の間に出荷されます。



FAIRWILD 認証のビヒタキの殻とトリファラの処理と出荷

生物多様性の調査

4月と5月、Devade 村の村に自動撮影カメラを設置し、野生生物の生息状況を調査しました。その結果、この場所が絶滅危惧種を含む野生生物の重要な生息地であることを確認することができました。写真は、絶滅危惧種のインドセンザンコウです。その他にも、危急種のサンバー（鹿の仲間）、ホエジカ、ジャコウネコ、イノシシ、ハヌマンラングール（オナガザル的一种）なども撮影されていました。



有機アルフォンソマンゴーの収穫と出荷

Ujgaon 村の村人と AERF のチームは、マンゴーの木が有機栽培されている果樹園でアルフォンソマンゴーの収穫をしました。104 本の木から 1 万 2 千個のマンゴーの実が収穫されました。近隣の村の果樹園と比較すると非常に高い収穫率です。果樹園の管理と栽培は、Ujgaon 村の女性自助グループのメンバーに 90 人・日の労働機会も提供しました。

健全な森は花粉媒介などの生態系サービスを通じて農業生産に重要な役割を果たします。そのことを理解することは大変重要です。

収穫されたマンゴーは、MyForest ブランドの下、インドの 15 の町で販売され、さらに、110 のパイヤーと森林保全と有機マンゴー生産の関係に関する対話を始めるきっかけを作りました。



Ujgaon 村で有機肥料をつくる女性たち



収穫・箱詰めされた高品質のアルフォンソマンゴー